

# 第30回 ひきよせ大会 チャリティバザー開催



# ひきよせ

天理教夕張大教会  
北海道岩見沢市9条西6丁目  
〒068-0029 ☎0126-22-1248  
FAX 0126-23-7275  
bariten@main.jp  
yubaridai146@gmail.com

## 貴方への手紙 (298)

「元気で北海道！」を合言葉に震災後、激減した旅行者を呼び戻そうと行政も躍起になって呼び掛けています。皆さんの生活がかかっていますから。

雪が降るまでに復旧しなければなりません。コンビニやマーケットは通常どおり商品が戻って来ました。普通の日々がどれほどありがたいことか！

震災後すぐに停電になりましたが大教会は市立病院の隣のせいか昼には復旧しました。しかし市内の大半は停電です。そこで何かできることはないか？と思つたら今年の大会スローガンは、「今できることがある！」ですね。覚えておいてください。

今、市民の皆さんは携帯電話の充電に困っている。テレビが見られない。インターネットで安否確認や被害状況を知りたいのではないか？それで門や玄関に看板。ツイッターやフェイスブックでも報せました。すると早速市民の皆様



が来て下さり、心から喜んでくれました。そのとき、お腹の底から嬉しさがこみ上げて不思議な感覚を味わいました。来てくれてありがとう！という嬉しいありがたい気持ち、沸き上がったのです。こんな当たり前のことで涙が出るほど嬉しくなるとは！それは新鮮な発見でした。人が人の役に立ちたいという気持ちは元々誰にもある。本能に違いないと確信したのです。

10月はそれぞれの教会で秋季大祭が勤められています。参拝に行きますと皆様がいつも以上に弾んでいるようで、やはりお互い無事で元気に再会できたことが嬉しい気分なのです。

さて10月26日のご本部秋季大祭

10月24日 秋季大祭団参出發

26日 秋季大祭

28日 青年会創立百周年記念総会

11月 青年会ひのきしん隊

### 今後の予定

には大勢が帰参されることを楽しみにしています。

おどば帰りは大きな喜びです。10月28日には青年会百周年が執り行われます。若い人がその日を目指しておどばに結集します。今から胸躍る気がします。

去る9月16日のひきよせ大会、バザーにはご協力ありがとうございました。

呼びかけのチラシを一軒一軒手渡しさせて頂いたり、新聞広告に入れたり、地元新聞に載せて頂いたりして様々な努力をしました。

おかげで600人以上の人に参加して頂けて嬉しかったです。特に今回は一般市民の方々を神殿の中に案内し、多くの人に初参拝をして頂けたことが喜びでした。皆様には大変手間をおかけしましたが、人様の喜んで下さる姿は何より嬉しくやりのあることです。

私は今回、農家を回り、野菜集めに奔走するうちに協力して下さる市民がだんだん現れて夢中になっていました。大教会のホームページをご覧下さい。(10月10日記)

★ホームページ  
bariten@main.jp



### 九月 月次祭の様

北海道を襲った胆振東部地震から約一週間、未だ道内各地混乱の中であったが、大教会は連日ひきよせ大会の準備に、ひのきしんの人達が幾人も汗を流していた。祭典準備の14日も、片方では月次祭の準備、もう片方ではひきよせ大会、と誰もがいそいそと身体を動かしていた。

迎えた15日は天気も良く、おつとめ衣では汗ばむ位の陽気であった。開扉献饌のち座りづとめ・十二下りのおつとめを、鳴物の音も高らかに勇んで勤めた。

神殿講話には8月に予定していた富山敦雄役員が立ち「皆様方もお借りしているこの身体の様子というの一人ひとり違うと思えます。私は腎臓の機能が低下して、身体から排出されなかったカリウムが血中に入り込み、高カリウム血症というのになりました。血中のカリウムは筋肉を硬直させ、ついには心臓を止めにかかるそうです。入院中に、医者に症状を詳しく教えてもらいましたが、成程、最近の自分に思い当たる事が多かった。

先月の初旬は調子が一進一退ながら、なんとか部内の月次祭をご参拝させて頂いておりました。しかし12日になって気分が悪くなり、吐き気がしたのでトイレへ行くと

なんとトイレの中で気を失ってしまいました。奥さんにおさづけを取り次いでもらい、病院へと行きました。しかし栗山の日赤病院では原因は分からず、岩見沢市立病院へと搬送されました。

思えばこれが運命の分かれ道で、市立病院に行かなければ、その日の晩には命がなくなっていたでしょう。その晩すぐに手術となり、胸にペースメーカーが着けられ、一命を取り留めました。その陰では有難いことに、家族と息子、そして孫が大教会までお願い込みに来てくれていたようです。



入院している間、多くの方がおたすけに来て下さいました。おさづけも何十回してもらったか、数えきれません。そんな皆様の真心でもって今日ここに立たせて頂いている、と思います。

この度の身上を通して、私はいんねんについて頭を巡らせました。よく聞くのは男系の親々のいんねんの話ですが、遺伝子で考えると母方からも半分受け継いでいる。自分から遡ってみると、うちの初代、四代前だと先祖は8人です。

このあたりまでは全員分かります。五代目で16人、六代目で32人、十七代遡るとなんと65536人になるんですね。それだけの先祖がいなければ、私は生まれていないんです。そういったすべての人のいんねんを受け継いで生きているんです。しかし神様は『元のいんねん』という事をお教えくださいている。幾万の先祖のいんねんより、元始まりのいんねんを、いかに自覚して意識して通れるか、という方が大切であると説かれているのです。

予想より早く20日には退院させて頂き、家族が心配する中ではありましたが、おちばがえりも毎月の通りさせて頂きました。神殿当番に行く、喜多先生が「こぶき話が出来ましたね」と仰った。以前ひきよせに載った私のこぶき話は若い頃の事故の話でした。同じく命の危険を感じた瞬間でしたが、やはり自分の身体にお見せ頂いた今回の身上は感じ方が違うな、と思います。この度の身上を通して、富山家のいんねんの自覚をさらに深くすることになった、と思います」と語った。

また大教会長は挨拶で「9月の初めに真柱室より連絡があり、夕張の新会長の就任奉告祭を、3年後の9月4日に定めたとお知らせ頂きました。今年の9月4日を考えると、丁

### 未曾有の震災に、 たすけ合いの輪広がる

9月6日未明、胆振東部を中心に、最大震度7の大きな地震が北海道を襲った。震源地に近い厚真・安平・むかわでの被害は深刻で、多くの方が犠牲になり、また今なお避難を余儀なくされている人が少なくない。

道内各地にも影響は大きく、9割以上の世帯が停電となった。また信号が止まったりなど、インフラの混乱もあって、道内の農業・工業・商業も一時的にストップしてしまい、多くの店から品物が消える事態となった。

大教会では、この地震を受けて、停電が比較的早く回復した事もあり、教職舎ロビーを一般開放。携帯の充電やインターネット利用、またテレビを設置しニュース等情報の確認が出来るようにした。岩見沢市内では地域によって復旧が遅れるところがあり、またSNSでの拡散もあって、10人程の一般の方が利用に訪れた。

一方、道から要請を受けて、北海道教区災救隊が被災地へ派遣され、厚真・むかわ両町の復旧作業に従事した。夕張からは7名の隊員が参加し、散乱した家具で足の踏み場のない民家を片付けたり、崩れてしまった新小屋を立て直したりと、ひのきしんの汗を流した。



9月28日 教会長路傍講演の日

度台風が北海道に来ていました。台風が過ぎると、今度は地震が来ました。大教会は早々に電気が復旧しましたが、この状況で自分達に何が出来るか考えました。電気が不通のところもまだまだ多く、充電やインターネットをさせるように、大教会のロビーを開放しました。何人か利用しに来てくれました。道内が自粛ムードになり、岩見沢でも百餅まつりが中止になりました。そんな中ですがチャリティーという側面もありますし、明日に迫ったひきよせ大会を大いに盛り上げて、我々が精いっぱい気持ちの沈んだ方々を元気づけてあげたいと思います」と結んだ。祭典後も翌日に控えたひきよせ大会の準備に余念なく、それぞれが時間が経つのを忘れてひのきしんに勤しんだ。そうした人達のお陰もあり、日が暮れるまでには殆どの会場のセッティングが終了した。

また災救隊とは別に、被災地域には教友も多く、個人でそうした方達への支援の手を差し伸べる人もいて、たすけ合いの輪が広がっていった。

従前よりチャリティーバザーとして開催されていたひきよせ大会でも、今回の地震を受け、災害支援の募金箱を設置した。当日来られた方々の善意が集まりました。賛同しご協力頂いた方々に、厚く御礼申し上げます。集まった金額は全て、日本赤十字社を通じ被災地復興の義援金として募金いたしました。

### 教会を市民に開いて、 チャリティーバザー開催 第30回ひきよせ大会

青く澄んだ空が広がる秋晴れとなった9月16日(日)、大教会では「第30回ひきよせ大会・チャリティーバザー」を開催した。10日ほど前に起きた台風21号や胆振東部地震による被害に沈んでいる市民の心に、陽気ぐらしの明るさを与えて元気を出そう、と境内に多くの市民を誘い入れて、神苑に人が溢れる盛況となった。

前日の月次祭の後でも、門にアーチを掛け装飾を施すなど、準備も怠りなく進め、16日当日は、9時半に神殿に集合、受付をして参拝、大教会長の挨拶があった。「台風と地震の影響によって岩見



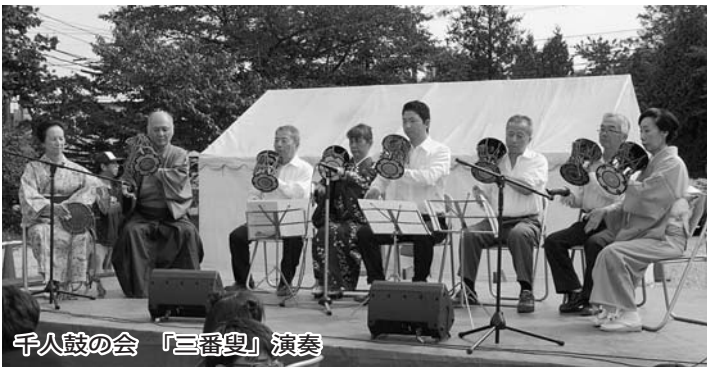
沢最大のイベントの百餅祭りが中止となった。その中『バザーをやるなら』と野菜が寄せられ、また市民の関心も集まっている。市民の方が神殿・教職舎でバザーを楽しむ一日にして欲しい」と述べ、続いてよろづよ八首が総立ちでつとめられ、11時の開会を待った。神殿では入場者に福餅と抽選券を配る用意、初参拝の方に説明のスタンバイ。第二客殿では和装の女性陣が抹茶の接待を整え、ス



殿内で福餅と抽選券をお渡しし  
回廊でフリーマーケット

テージにはグリーンヒル吹奏楽団が音出し、と来場者を今か今かと待ち構えていた。今回、正門から車が入りして乗降できるスペースを作ったため、会場が神殿側に偏ったが、裏庭にも駐車スペースを確保し、市民が車で来られるのを見込んでいた。

神殿の障子が外され、廊下はフリーマーケット8店が並んで、それぞれの特色を競い、食堂ではきのこたつぶりのキノコ汁が振舞われた。外の屋台では格安野菜の販売、ビール・焼き鳥・たこ焼き・おしるこ・フランクフルト・シューマイ・うどん・チョコバナナ・コーヒーが格安で売り出された。



千人鼓の会「三番叟」演奏

こども縁日にはぶら下がりシーソーに列が出来、人形すくいやスマートボール、射的に子どもが群がった。ステージでは吹奏楽から始まり、「千人鼓の会」の望月先生が来会し、夕張の会長他会員が揃って小鼓を持ち「三番叟」の演奏があった。皆が小鼓と大鼓の本物の「カッ」「ポン」という音に聞き入った。



一方、教職舎ホールではギターの弾き語りがあったり、着付教室、また映画『おくりびと』の技術指導をした納棺師による納棺の儀が実演されて、盛りだくさんの内容だった。市民の入場は12時の時点で200人を超え、最終的には250人位になったようだ。多くの人がバザーを楽しみ、抽選会で当たった大きな袋をお土産に帰っていた。最後は仮装盆踊りが催され、子ども達がキャラクターやトトロの衣装で笑顔を振りまいていた。

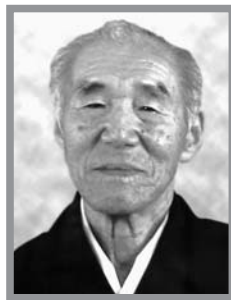
「みんなであすけあいの輪広げよう」と打ち出したチャリティーバザーは14時に終了し、後片付けも迅速に進んで、多くの方の協力を頂いた事に御礼を申し上げ解散した。入場者は教内350人・一般250人の600人余であった。

翌日、益金は市の社会福祉協議会へ寄付。また日本赤十字社へ地震のお見舞金をさせて頂きましたことを報告いたします。

藤田大和大会委員長は「今回は青年会の若い人たちが企画を出し、従来出来なかつた課題を乗り越えようと最後までジタバタしましたが、たくさんのお力添えを頂き、大盛況のうちに終えさせて頂きました。誠にありがとうございます。来年も全力で取り組み、気軽に市民の方が門をくぐれる催しを目指したいと思えます。厚くお礼申し上げます」と述べました。

# 訃報

大教会役員、  
由仁分教会四代会長  
大橋教弘氏(享年101歳)



9月16日早晩に、大橋教弘先生が突然に出直された。その12日に百歳を迎え、お祝いをした矢先であった。ここに、ご生前のお道の上、大教会の御用の上にお尽くし下された事を深謝し、謹んで哀悼の意を表します。  
先生は大正7年9月、大橋勘宗・シゲリ夫妻の8人の子の長男として生まれ、お道の御用の上、親兄弟の為に、若くして

## 2教会で新任教会長誕生

この9月26日のお運び(下記庶務部参照)で、南幌分教会長に齊藤智明氏(43歳)と、志加ノ谷分教会四代会長に岩佐善昭氏(37歳)がお許しを戴かれました。

9月30日には南幌分教会で早速奉告祭が大勢の参拝者で執り行われました。志加ノ谷は11月10日の予定。

齊藤氏は東苗穂分教会の次男で、北海道大学卒業後、お道の御用の

夕張川の砂利さらい、冬の造材運搬など力仕事をしておられた。昭和34年4月、由仁分教会四代会長に就任し、8人の子供を育て、いつも飄々として大らかに歩まれたように思っていたが、本心では持ち前の性分の腹立ちの心を抑え、ほこりを立てぬよう胸を払って通る日々だった。元気にビデオカメラを抱えて大教会の行事を撮ったり、修養科生の教室まで入っていった姿が思い出されます。

周りの方を楽しませる事を楽しみにしておられました。新しい時代・生活の中でも、自らの信仰を貫いて、孫が26人、ひ孫が35人という大家族の芯であり続けました。大変ご苦勞様でした。ひきよせ誌の上にもお世話になりました。厚くお礼を申し上げます。

上に引き寄せられて、現在も教区書記として勤めておられます。この度、上級の萬善分教会の事情を治めるため、また東三川より移転して南幌町に教会を一新する上に尽力されました。

岩佐氏は室蘭工業大学卒業後、本部の天理教一れつ会に勤務し、その後も、道一条で通り、現在大教会青年会副委員長を務めて下さっています。

二人の若い力が夕張全体に活力を与えてくれるよう願います。

## 天理教南幌分教会 会長就任・移転・改称 奉告祭



9月30日 南幌分教会 報告祭



南幌分教会長  
齊藤 智明 氏



志加納ノ谷分教会長  
岩佐 善昭 氏

## 庶務部 9月

▽教会長任命講習 9・10・14

齊藤 智明(南幌)

岩佐 善昭(志加ノ谷)

▽お運び 9・26

・任命 移転 改称

齊藤 智明(南幌 旧名称萬善)

新教会所在地

空知郡南幌町元町4丁目5番3号

・任命

岩佐 善昭(志加ノ谷)

▽ひのきしん

・本部食堂

藤田 真紀(幌都) 9・16・30

・詰所

山根ふじの(善進道) 9・24・27

▽育成基金寄附

由仁分教会

▽おひや 2件

▽おまもり 1件

## 大教会日誌抄 9月

2日 ひきよせ大会準備日

3日 会長夫妻、帰会

7日 6日の地震を受けて、大教会ロビーを一般開放。

約10名が利用

9日 ひきよせ大会チラシ配り日

12日 災害隊出動、夕張から計7名参加

13日 餅作りひのきしん

14日 祭典準備、月例会議

15日 月次祭

16日 ひきよせ大会

18日 会長、空知分婚礼へ

18日 会長夫人、由仁分四代会長

19日 みたまうつしへ 会長、由仁分四代会長 発葬の儀へ

22日 会長、函館からおちばへ

24日 会長、本部神殿当番

25日 会長夫人、おちばへ

26日 本部月次祭、遥拝式

28日 会長夫妻、帰会

29日 会長、南幌分教会鎮座祭

30日 会長夫妻、南幌分教会奉告祭

## 編集後記

先日ある教会の奥さんの一代記を聞かせてもらった。平凡な淡々とした人生かと思いきや、それが、若い時、「南米のコロンビアに有為な人材がいる」と伺い、その方におちばがえりをさせたいと、費用に全額を私が出しますと申し出た。誰にも告げず、黙々と実行した。そのコロンビアの方は、おちばで親神様の教えを聞いて、おさづけを戴き、よふぼくとなつて帰り、おたすけ人として歩み、50人ものよふぼくの誕生を見て、お道の信仰が根付いたと言った。

人間はあざないものであるから、末の道筋さらにわからん 三35 今の道いかなみちでもなけくなよ、先のほんみちたのしゆでいよ 三37 と、おふでさきにある。

人間は今さへ良ければと、目先のことにとらわれがちで、大切なものや将来のことを見据えて、しっかりと歩めない。楽しい嬉しい日々ばかりではなく、心曇らせ、身上に悩む日もある。その時、神様の守護、教祖の言葉を信じて、先を楽しんで歩むというお道の通り方が、大事である。

今号の訃報の大橋先生の生き方と同じだなあと思ひ、災害に見舞われた時にこそ、心に刻もうと思つた。